

|                    |       |            |      |
|--------------------|-------|------------|------|
| <h1>福祉心理学特別研究</h1> | 担当教員  | 単位数        | 配当学年 |
|                    | 平川 昌宏 | 6単位        | 2年   |
|                    |       | 履修方法(授業形態) |      |
|                    |       | SR         |      |

## ■事前に受講してほしい講義等

心理学的な理論と支援（発達心理学）・心理学的な支援と応用演習（発達心理学）

## ■授業のテーマ

福祉心理学研究の理論と実践

## ■授業の目的

現在の社会的状況や発達心理学のこれまでの知見をふまえ人々の発達やその支援に関する研究課題を設定し、心理学研究法を用いてその研究課題について検討を行うことができる。さらに検討結果について、心理学的実践活動という観点から考察を行うことができる。

## ■授業の到達目標

- ・発達とその支援に関する自身の興味・関心のあるテーマを心理学的な概念として説明できる。
- ・そのテーマについて、これまでの心理学研究で「明らかになっていること」「明らかになっていないこと」、さらには、そのテーマについて検討を行うことの意義について論理的に説明できる。
- ・独立変数と従属変数を明確にした上で、そのテーマについて取り組みたい「問い」とそれに対する仮の答え（「仮説」）を立てることができる。
- ・仮説を実証的に検討するためのデータ収集法を研究倫理を念頭に置きながら立案実施できる。
- ・統計的手法を用いてデータ分析を行い、心理学の手法に基づいて結果をまとめることができる。
- ・結果に基づいて論理的に考察を行うことができる。
- ・自身の取り組んだ研究について、心理学的、福祉的意義を述べることができる。

## ■授業の概要

これまでの学びや経験を通して各自が持っている発達やその支援に関する興味・関心を心理学の俎上に乗せ、その方法論に則って深めていく。教員の助言を受けながら、テーマを決め、文献を調べ、仮説を立て、調査を計画・実施し、結果を分析し、考察を行っていく。

## ■授業の方法

個別指導

## ■授業時間外学修（予習・復習等）

心理学研究法・統計手法について熟知しておくこと。

研究の目的について、先行研究や文献をできるだけ多く集めておくこと。

研究の目的に合う研究デザインについて、独立変数、従属変数のプランを明確にしておくこと。

## ■評価の方法・基準（評価割合）

本研究への取り組み（20%）、3回のレジュメ（20%）、論文内容（40%）、最終プレゼンテーション（20%）

## ■履修上の注意事項

3回以上の面接指導と2回以上の通信指導を受けること。3回のレジюме（構想レジюме・第1回中間レジюме・第2回中間レジюме）提出が必須。

## ■論文作成のポイント（テーマと内容等）

|    | ポイント   |
|----|--|
| 1  | テーマ：研究テーマの設定<br>内容：人々の発達やその支援に関して関心のあるテーマを見つける。  |
| 2  | テーマ：研究文献の収集（図書館検索）<br>内容：テーマに関する心理学の研究論文を図書館で検索・収集する。  |
| 3  | テーマ：研究文献の収集（インターネット検索）<br>内容：テーマに関する心理学の研究論文をインターネットの検索システムを用いて検索・収集する。  |
| 4  | テーマ：文献の内容理解<br>内容：文献を読み、書かれている内容を整理し、自身の関心のあるテーマが心理学においてはどのような構成概念として扱われているかを理解する。                                     |
| 5  | テーマ：文献のレビュー(独立変数・従属変数と仮説の明確化)<br>内容：収集した論文についてレビューを行う。まずは、それぞれの研究で扱われている独立変数・従属変数と仮説について整理する。                          |
| 6  | テーマ：文献のレビュー(方法の理解)<br>内容：収集した論文で用いられている手続き、尺度、データ分析法について理解する。  |
| 7  | テーマ：文献のレビュー(先行研究で得られた知見の整理)<br>内容：各研究の結果、考察の内容をまとめ、研究で「明らかになっていること」と「明らかになっていないこと」を整理する。さらに、研究間で結果が異なる場合、その理由について考察する。 |
| 8  | テーマ：従属変数の決定<br>内容：従属変数としてどのような心理的構成概念について検討を行うかを決定する。  |
| 9  | テーマ：要因空間の想定<br>内容：研究で扱う従属変数に影響を及ぼす要因を列挙し、従属変数とそれらの要因、さらには要因間の関連について整理する。   |
| 10 | テーマ：独立変数の決定<br>内容：列挙した要因の中で今回の研究で取り上げる要因（独立変数）を心理学的、福祉的意義を念頭に置きながら決定する。  |
| 11 | テーマ：仮説の立案<br>内容：独立変数と従属変数の関係について、これまでの文献レビューに基づきながら仮説を立てる。その際、その仮説の根拠について論理的に説明できるようにすること。                             |
| 12 | テーマ：研究方法の立案（研究計画の作成）<br>内容：研究倫理を念頭に置きながら具体的な研究の手続き、教示の仕方を決定する。また、研究で用いる材料（実験材料や質問紙など）の作成を行う。                           |
| 13 | テーマ：予備調査の実施<br>内容：立案した研究計画に基づいて予備調査を実施する。  |
| 14 | テーマ：研究方法の決定（調査の手続きや教示・質問紙などの確認・訂正）<br>内容：予備調査の結果をふまえ、必要に応じて研究方法の訂正を行う。   |
| 15 | テーマ：作業仮説の立案<br>内容：立案した仮説が正しい場合、今回の研究ではどのような結果が得られることが予想されるか（作業仮説）を考える。   |
| 16 | テーマ：研究の依頼<br>内容：研究の実施に当たって、教員や外部機関の協力を必要とする場合は、先方の都合を考慮したうえでなるべく早く依頼を行う。また、研究方法や用いる質問紙などについて説明を行い、必要に応じて内容の修正等を行う。     |
| 17 | テーマ：研究の実施<br>内容：調査協力者に調査の概要を可能な限り伝え、承諾を得たうえで調査を実施する。調査の実施に際しては、倫理的観点から協力者や協力機関に不利益のないよう配慮すること。                         |

| ポイント |  |
|------|--|
| 18   | <p>テーマ：結果の分析（データ入力）</p> <p>内容：得られたデータを分析可能な形で統計処理ソフトに入力していく。その際、得られたデータの管理を厳密に行うこと。</p>  |
| 19   | <p>テーマ：結果の分析（データ分析）</p> <p>内容：作業仮説を踏まえながら妥当な検定方法を選択し、実際に統計処理ソフトを用いて分析を行う。さらに、統計処理ソフトの出力結果から、必要な情報を抽出し、分析結果を理解する。</p>                           |
| 20   | <p>テーマ：結果の整理</p> <p>内容：統計分析の結果を整理し、個々の分析結果を統合して全体として明らかになったことを明確にする。</p>   |
| 21   | <p>テーマ：論文執筆（問題1）</p> <p>内容：取り上げたテーマについて検討することの意義を文章化する。さらに扱う心理的構成概念について定義を行う。</p>  |
| 22   | <p>テーマ：論文執筆（問題2）</p> <p>内容：これまでの研究をまとめ、今回の研究の位置づけを明確にする。</p>   |
| 23   | <p>テーマ：論文執筆（目的）</p> <p>内容：研究の目的、仮説を書く。仮説を記述する際には、研究の方法をふまえた作業仮説についても記述を行う。</p>   |
| 24   | <p>テーマ：論文執筆（方法）</p> <p>内容：研究協力者の人数や属性、調査の実施時期等について記述する。さらに、データ収集の方法や手続き、用いた尺度などについて、追試可能性を念頭に置きながら記述する。</p>                                    |
| 25   | <p>テーマ：論文執筆（結果：データ分析に基づく結果の記述）</p> <p>内容：どのような分析を行ったのか、その結果はどうであったか、その結果によって何が示唆されたのかについて整理し、記述していく。その際、統計量などの記述の仕方を心理学研究の記述法に則りながら記述していく。</p> |
| 26   | <p>テーマ：論文執筆（結果：図表の作成）</p> <p>内容：Excelを用いて図表を作成する。仮説をふまえながら得られた結果を明確にわかりやすく伝えられるよう工夫を行うこと。</p>  |
| 27   | <p>テーマ：論文執筆（考察、仮説の検討）</p> <p>内容：得られた結果に基づき、仮説の検討を行うと同時に、得られた結果についての心理的メカニズムについて考察を進め、文章化する。</p>  |
| 28   | <p>テーマ：論文執筆（考察 この研究の意義と今後の課題）</p> <p>内容：研究結果と仮説の検討結果をふまえ、行った研究の心理学的、福祉的な意義と今後の課題について考察し、文章化する。</p>   |
| 29   | <p>テーマ：論文執筆（引用文献、参考文献、要約）</p> <p>内容：心理学の学術論文の参考文献・引用文献の書き方にしたがって参考文献・引用文献を執筆する。また研究の目的・方法・成果を端的に要約する。</p>                                      |
| 30   | <p>テーマ：協力者への報告資料の作成</p> <p>内容：協力者や外部機関に対しても報告とお礼を忘れずに行うこと。特に外部機関からの協力を得た場合は、研究結果の概要などについてわかりやすくまとめ報告を行うこと。</p>                                 |

## ■教科書・テキスト

研究課題に応じて適宜紹介する。